

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録
2013年12月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

第51回上期ギャラクシー賞 各部門の選考会はじまる

—10月理事会報告—

2013年10月23日、10月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 川喜田副委員長

・本日12月号の最終の校正作業を終了した。表紙は池内博之さん。

ザ・パーソンはイラストレーター
のキン・シオタニさん。特集は「今年
のドラマは熱かった」。

・1月号は「第51回ギャラクシー
賞上期発表」と「特定秘密保護法
案を考える」の特集。表紙は三谷
幸喜さん。ザ・パーソンは重延浩
さん。2月号の特集は「ラジオ」。

小田桐常務理事から2月号の特
集に関して、当初の中身と大分変
わったという話を聞いたが、事情
を説明してほしいとの問い合わせ
があった。

それに対して川喜田副編集長が、
編集委員会の後で、制度や行政の
新たな動きの情報が入り、産業論
にも目配りした特集にしたいと検
討し、最初の案に新たな視点も加
える形で落ち着いたと答えた。

◇選奨事業委員会 藤久委員長

〈テレビ委員会〉中町副委員長

・10月2日に9月度の月評会を開
催して、「Woman」(日本テレビ)
「夫婦善哉」(NHK)「半沢直樹」
(TBS)「あまちゃん」(NHK)
の4本を選んだ。

・第51回ギャラクシー賞上期の参
加本数は142本で、前年よりも
6本増えた。10月28日に10月度の
月評会と選考会を開催する予定。
〈ラジオ委員会〉桜井委員長

・10月17日に定例会を開催して
「萩上チキ Session22」(T

BS)と「オールナイトニッポン
GOLD」(ニッポン放送)を試
聴した。

・第51回上期の参加本数は38本で、
前年よりも8本増となった。生ワ
イド部門の参加が増えたが、その
要素としては第50回の大賞が
「日々感謝」で日常のワイドだっ
たことが大きいだろう。反対にド
ラマ部門の参加が少なかったのは
残念だった。選考会は10月21日に
生ワイド部門、音楽&エンタテイ
ンメント部門を開催した。29日に
ドラマ部門、報道・ドキュメンタ
リー部門を開催する予定。

・ギャラクシー賞入賞作品を聴い
て、語り合う会は12月1日に開催
する予定。大賞作品の制作者とD
J・パーソナリティ受賞のピータ
ー・バラカンさんをゲストに迎え
る予定。

〈CM委員会〉五井委員長

・10月22日に定例会を開催した。
10月に入ってCMが様変わりした
という意見が出た。10月30日に選
考会を開催する予定。

・上期の参加本数は127本で昨
年よりも8本減となった。

〈報道活動委員会〉 市村副委員長

・上期の参加本数は6本で、昨年よりも2本減となった。参加作品を増やす対策を10月26日開催の選考会で話し合う予定。

・11月9日に「報道活動を見て、作者と語る会」を日大で開催する。

◇企画事業委員会 碓井委員長

・10月8日に委員会を開催した。2014年3月にシンポジウムを開催予定。テーマの決定、講演者の人選を進めていく。次回委員会を10月28日に開催予定。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・8月度の月間ノミネート作品1位は24時間テレビのドラマ「今日の日はさようなら」だった。これまでで最高の943票を集めた。

2. その他

①「ギャラクシー賞50年史」進捗状況 中島事務局長

・表紙デザインが上がってきたので理事一同で確認。11月末の完成を予定しているが、索引作りに時間がかかり、多少遅れる可能性がある。

・坂本理事から40年史と一緒に販売する方法がないのかとの問い合わせ

がある。志賀基金で制作するので、50年史は定価がつけられないため、単独販売は難しい。「40年史」購入の特典などの形を検討していると中島事務局長が答えた。

②「清水英夫さんを語る夕べ」開催報告 音理事長

・10月21日に「清水英夫さんを語る夕べ」を開いた。出席者は約80人。「GALAC」連載「少数異見帳」の全採録冊子、清水さんの47年分の年賀状などを掲載した「清水春秋」、メモリアルブック、各団体の追悼など7点を出席者に配布して好評だった。

③NPO東京TVフォーラム「Tokyo Docs 2013」後援

・中島事務局長より、内容説明及び今までの経過説明。↓了承。

④日韓中TV制作者フォーラム

川喜田理事

今回初めて参加したが、こんなに大規模なものとは思わなかった。韓国はビジネス寄り、日本は文化交流などそれぞれの立ち位置が面白かった。詳細は「ほうこん」に掲載（3ページ）。

今回参加した藤久理事と中町理事か

らの報告もあった。

次回以降の理事会

11月25日(月)

12月19日(木)

【出席】音好宏、橋本隆、上滝徹也、小田桐誠、藤久ミネ、碓井広義、桜井聖子、五井千鶴子、滝野俊一、市村元、入江たのし、川喜田尚、坂本衛、嶋田親一、中町綾子、稗田政憲、中島好登

会議記録

【10月】

2日 (選奨) テレビ月評会

8日 出版編集委員会

17日 (選奨) ラジオ定例部会

21日 (選奨) ラジオワイド、音楽&エンタテイメント選考会

22日 (選奨) CM定例部会

23日 理事会

26日 (選奨) 報道活動選考会

28日 (選奨) テレビ月評会

(選奨) テレビ選考会

29日 (選奨) ラジオドラマ、ドキュメンタリー選考会

30日 (選奨) CM選考会

第13回日韓中テレビ制作者フォーラム in無錫(10月14日〜17日)

川喜田尚

新華社は以下のように伝えた。第13回中日韓テレビ制作者フォーラムが16日、江蘇省無錫市で開幕した。中国文学芸術界連合会書記処の李前光書記、中国文学芸術界連合会の趙化勇副主席(中国テレビ芸術家協会主席)、日本から放送人の会、今野勉会長、韓国PD連合会の洪鎮杓会長ら、各国の代表120人あまりが出席した。3か国は、「旅・情―幸せな夢」というテーマに基づき、ドラマ、ドキュメンタリー、バラエティー番組の計4作品をそれぞれ持ち寄った。(10月17日)

思惑には温度差

中国メディアが大きなニュースとして発信するこのフォーラムは、日韓のテレビ制作者が、博多〜釜山フェーリー上でドキュメンタリー番組について語り合ったのがその始まりとされている。当時、両者の認識のずれは大きく平行線のままだったが、それをきっかけに年1回の会合が開かれ、今や中国も加わった日韓中3か国のあらゆるジャンルの制作者が番組を鑑賞、意見交換、交流するまでに発展した。

初めて参加した印象は、各国の思惑には温度差があるということ。文化交

流や意見交換に重きを置く日本、ビジネスチャンスの場ととらえる韓国、日韓のいいところを取りながら自国テレビメディアのプレゼンスもアピールしたい中国。それは決して悪いことではなく、そもそもスタンスの違いを認識することから話は始まるのだと思う。

関心の高さ

参加番組の質的レベルは予想よりは高かった。中国のドラマ「北京青年」、韓国ドラマの「学校2013」は、若者や学校の問題を真正面から捉えた作品として衝撃的であり、また他の作品も海外への展開を非常に強く意識していた。韓中のフォーマット販売も既に実現していた。

TBSの「とんび」、テレビ東京の「Youは何しに日本へ?」、tvkの「希望の翼」あの時、ほくらは13歳だった」を鑑賞、意見交換する会場に向向いたが、制作費や撮影ノウハウに至るまで、質問や意見が多く交わされた。評価はされたが日本の番組は他国の放送人にはややテンポが緩慢に映ったようだ。

「希望の翼」は、ドキュメンタリードラマという手法そのものがとても新

鮮に受け止められた。大山勝美総合監督への敬意の言葉も寄せられた。同時に韓国KBSとの共同制作でありながら韓国での放送が実現していない現実についても率直な意見が交わされた。

帰国後、大学生と「希望の翼」を鑑賞し、このフォーラムについての彼らの反応を見たところ、まずこういった民間交流が関係悪化後も続いていることに驚き高い関心と敬意を表していた。また日韓史への認識がこのドラマでかなり変わったという感想が多く、KBSで放送されていないことの意味についても、日韓関係を考える現実的な教材となった。

障壁を超えて

フォーラムには直接関係はないが、日本の番組が無錫、上海など中国各地で大掛かりな違法配信組織の餌食になっている現実を目の当たりにした。現地日本人によると、セットトップボックスを数千円〜2万円程度で購入する



「希望の翼」のプレゼンテーション
原作者の寒河江正さん(右)
tvk編成局長 関佳史さん(左)

と業者が取り付けに来て、NHK総合BS、東阪の民放各局や大手有料放送がテレビやPCで見放題になるといいう仕組み。あまりに堂々としたビジネス?であるため一般人は違法という認識がないという。

今回のフォーラム参加で3つのことを確信した。ひとつは多面的に近現代史を考える番組や機会の提供は、放送メディアにこそ求められるのではないかとということ。ふたつ目は、番組・フォーマット販売、共同制作などの需要と機会は今後アジアで飛躍的に増えるだろうということ。そのためにはすでにCODAなども動いてはいるが権利環境の整備が急務であること。3つ目は、日本の制作者にもっと参加を促し、違法配信なども含めたアジアの事情を理解し刺激を受けてもらいたいということだ。

貴重な機会に恵まれた1週間。お世話になったみなさまに非常感謝。



無錫広播電視台

公開シンポジウム

第6回「ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会」

- 日時 2013年11月9日(土)13:00~17:00(開場 12:30)
- 場所 日本大学藝術学部 江古田キャンパス 東棟1階 E102 教室
- 主催 NPO 法人放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会
- 後援 日本大学藝術学部放送学科
- 入場無料(定員 100人) 事前の申し込みは必要ありません

今年で第50回を迎えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、札幌テレビの「がん患者、お金との闘い」シリーズなどが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

しかし、これらの優れた報道活動は放送エリア外ではなかなか視聴することができません。そこで、ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で「ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会」を開催してきました。報道活動に携わった制作者たちを招き、報道活動部門委員会の選奨委員、テレビ報道やジャーナリズムに関心を持つ研究者や視聴者、学生が一堂に会し、議論することは、放送界の明日にとって意義深いと考えます。

今回は、第50回ギャラクシー賞報道活動部門大賞・優秀賞を受賞した3作を取り上げます。南海放送(本社・松山市)の大賞受賞作は、アメリカが1954年に太平洋のビキニ環礁で行った水爆実験の被害が「第五福竜丸」だけではなく、多くのマグロ漁船に及んでいた事実を粘り強く発掘しました。9年間の取材成果を集大成したドキュメンタリー映画「放射線を浴びたX年後」は各地で自主上映され、この上映活動を含む報道活動は高く評価されました。

沖縄テレビの優秀賞受賞作「復帰を知る」は、沖縄の本土復帰40周年を迎えた2012年、「復帰とは何だったのか」を当時の関係者たちに取材し、ローカルニュース枠で多角的に伝えたシリーズ企画です。福島放送の優秀賞受賞作は、福島原発事故によって警戒区域に指定された南相馬市小高区で農地復旧に取り組む農民たちに寄り添い、長期間にわたって追いました。制作者、研究者、視聴者を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

◇ゲスト

南海放送ディレクター(「放射線を浴びたX年後」監督) 伊東英朗
沖縄テレビ「O-TVスーパーニュース」キャスター 平良いずみ
福島放送報道制作部記者 鎌田侑樹

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

<問い合わせ>

■放送批評懇談会 03-5379-5521(平日10時~13時/14時~18時)

<会場へのアクセス>

- 最寄り駅 西武池袋線 江古田駅
(池袋駅から各駅停車で3駅、6分)
- 江古田駅北口から徒歩3分

